

2023 年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

I【現状】原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。

対象部局	11 外国語学部	責任者	山口直人
基準 5	学生の受け入れ	総合自己評価	B
★基準5の総合自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
≪回答≫ 2023 年度入試の入試定員に対する入学者数は 88%（中＝83%、英＝103%、日＝77%）、収容定員に対する在籍学生数は 93%（中＝97%、英＝93%、日＝90%）であり、入学者数が改善課題のレベルであるため。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		A
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		A
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		A
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、B5-2 入学試験要項（一般、公募制推薦、自己推薦、社会人、編入学、科目等履修生、外国人留学生）、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程		A
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。 根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		A
評価の視点3※	学科ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。 根拠資料→A3-11*入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		A
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程		A
評価の視点5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。（一般入試及び多様な入試への対応）根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程*学科の状況（根拠資料等）を総合的に判断して自己評価してください。		A
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。		
評価の視点1※ 【基礎要件●】	各学科の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率（5年平均） 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告) 学部全体 5 年平均 95%（中＝97%、英＝95%、日＝91%） 根拠資料→大学基礎データ表 2、基礎要件確認シート 16		B
評価の視点2※ 【基礎要件●】	各学科の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→実験実習を伴う分野 1.20 以上(改善課題)、1.25 以上(是正勧告) 上記以外の分野 1.25 以上(改善課題)、1.30 以上(是正勧告) 定員未充足→0.90 未満(改善課題)、0.80 未満(是正勧告)		B

	学部全体昨年 93% (中=97%、英=93%、日=90%) 根拠資料→大学基礎データ表 2、基礎要件確認シート 16	
評価の視点 3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	B
<p>★項目 (3) 5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策（今後実施予定のものも含む）根拠資料を用いて回答してください。</p>		
<p>《回答》 2022 年度入試においては、2 学科（英語、日本語学科）が収容定員充足率が未充足だった。2023 年度入試においては中国語を含む 3 学科すべてにおいて未充足であった。現時点では 93%なので改善課題や是正勧告には至っていないが、改善が図れるような対策を引き続き外国語学部全体で考えていく。</p>		<p>《資料名》 11-C5-1： 中国語学科：フライヤー等 日本語学科：入試委員会資料</p>
点検・評価項目 (4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点 1 ※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：(開催日) 2023 年度自己点検・評価について	A
評価の視点 2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	A
<p>★項目 (4) 5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>		
<p>《回答》 学科ごとに入試対策委員会を立ち上げ、入試定員枠を変更したり、推薦入試合格者比率を高めた り高校宛てのフライヤーを作ったりして、定員充足のために努力をしている。</p>		<p>《資料名》 11-C5-2： 中国語学科：高校宛て手紙等 日本語学科：学科入試委員会議 事録 2023.05.15 開催 学部長会議 報告 6 1～21 頁及び 86 頁以 降</p>

II 現状を踏まえ、学部全体の長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・ 特色	特になし。
-----------	-------

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった学科の新たな問題点や課題について、学部としてどう捉えるか今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題 点・ 課題	点検・評価項目の(1)(2)(4)についてはA評価であるが、点検・評価項目の(3)についてはなかなかその結果が出ないことが残念である。各学科とも入試委員会を立ち上げ、学科ごとに対策を考えるとともに、定員が充足できるように入試方式を工夫しており、2023 年度入試では英語学科に好転が見られた。
----------------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カ テ ゴ リ	計 画 番 号	B 票 No. or 開始 年度	改善計画 (アクション プラン)	内容 (改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画

--	--	--	--	--	--	--

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。入学者選抜実施のための運営体制として入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の可否判定について説明・提案をおこない、学生募集及び入学者選抜の入学者選抜を公正に実施している。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備と運営状況は適正であると評価できる。</p> <p>しかし、総合自己評価「B」とされている理由としてあげているように、2022年度入試において外国語学部の実員充足率は86%であった。これに対して、定員未充足の学科による対応だけでなく「今後外国語学部全体で対策を考えていく」（項目(3)5-3への回答）とのことであり、今年度入試に向けての対策の考案として、受験希望者の獲得に必要な方策等を検討される場合は時期を考慮して適切なタイミングで行ない、実行に移されることを期待する。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。また、入学者選抜の公正さ、学生の受け入れ体制についてはよく整備されており、運営状況は適切である。</p> <p>入学定員に対する5年平均比率0.95、収容定員充足率は2023年度0.93となっている。2022年度は2学科において入学定員充足率が未充足であり、2023年度も2学科で未充足となった。そのため、学科ごとに入試対策委員会を立ち上げて、入試定員枠を変更したり、推薦入試合格者比率を高めたり、そして高校宛でのフライヤーを作成して定員充足のための努力を行っている。これら取り組みにより2023年度入試では英語学科に好転が見られたことは評価できる。今後は抜本的に志願者の獲得に必要な方策の導入が求められる。貴学部の取り組みに期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p>基準5 学生の受け入れ</p> <p>【大学基準】</p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>（解説）</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。</p> <p>大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。</p>
--

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。